

# 北海道短期研修レポート

キーワード：人生初めて、充実、感動、感謝

## はじめに

約 80 年前に、日本の作家川端康成は『雪国』という小説を発表した。小説の冒頭に書いた言葉「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」は世界に知られる名言となっている。『雪国』を読んだことのない私はずっと雪国は日本の北海道を指すと勘違いしていた。雪国が新潟県にあるという真実を知ったのはここに着いてからの話。しかし、川端康成の小説『雪国』の地理上の位置が新潟県であろうと、ほかのどこかであろうと、北海道、特にこの季節の北海道は雪の国、雪の世界だと言っても、誰も異を唱えないだろうと思う。



知らず知らずのうちに、私はこの真っ白の世界——北海道に足を踏み入れた。きっかけは去年九月に大学で行なわれた日本語スピーチコンテストだった。優勝した二人が北海道日中経済友好協会からのご褒美——北海道で二週間の企業研修をさせていただけることとなっていた。スピーチのテーマは「日本語を学ぶ理由」。一見して簡単のようだが、なかなかうまくまとめられない、まとめられても短い時間で言い尽くせないテーマだった。私は全力で準備して、自分の心の中で考えたことを最大限に掘り出して、スピーチコンテストに参加した。努力が報われて、二位を獲得し、今回の北海道短期企業研修の招待をいただいたのだ。

こんなにお世話になるとは思わなかった。毎日違う会社かどこかの場所に行って、違う人と出会い、一日中、たっぷりお世話になった後、お別れをし、次の日また新しい人と出会う。見ること、することは毎日変わり、途中疲れたりはあるが、いつも優しく面倒を見てくださる皆様のことを考えると、こちら側も負けないように、最後まで頑張るつもりだ。今振り返れば、充実した多彩な毎日を作ってくくださる皆様に感謝しなければならない。最初はこの研修レポートに今までの日々を重点的に書くつもりだったが、やはり毎日お世話ばかりになっていて、一日だけでも漏らしたら、あの日に色々お世話してくださった

人々に対して礼を失することになるので、これから恐縮ながら、少々長い文章を書かせていただく。



**2016年1月16日(土)** 上海→札幌 東京時間12時頃無事に札幌市に着いた。迎えに来てくださったのは協会の吉田事務局長と加藤さん。札幌ラーメンをご馳走してくださった。市内まで送ってくださって、ホテルのチェックインが終わってからすぐキャリアバンクという会社で、これからの研修についてのオリエンテーションに入った。頭の中はまだ目の前の白い世界に対する興奮に溢れている。何となく分かった感じで、次は夕食時間となる。場所は日本で最初に立ち上げられたビールの工場という前身を持つサッポロビール園。歴史のある古い場所で、最初に食べたのは羊の肉だった。羊の肉は日本全国で北海道でしかほとんど食べられていないという話も聞いた。



やはりこの北の大地には、日本のほかの県と違い、独特な所があるのだと思った。歓迎夕食会だから、食事中これから世話して下さる皆様とお酒を飲みながら歓談した。



**1月17日(日)** 厳しい研修の前の心休まる旅行だった。佐藤専務理事と吉田事務局長が車で一日の楽しい観光サービスをしてくださった。定山溪、洞爺湖、ニセコ、小樽…できるだけ多くの場所に連れて行って、そこの景色を私に見てもらいたい、というお二人の優しい気持ちを私はしみじみと感じた。

**1月18日(月)** また充実した一日だった。違うのは今回は遊びではなく、本

格的な企業研修だった。スーツの姿で SATO 社会保険労務士事務所へ行った。一日に頭の中に情報がいっぱい入ってきた。まず朝の佐藤代表の話が深く印象に残っている。映画『ショーシャンクの空に』を例として夢や目標（あるいは人生設計）が大事だということを説明してくださった。また、社会に入ると、いままでの学生専用エスカレーターが階段となり、上がった、下がった、急いだり、ぐずぐずしたりするのは全部自分次第（いわゆる自由）という話も耳について離れない。その後日本の企業、保険制度、給与などについてもある程度佐々木常務から教えていただいた。詳しい内容は省略させていただく。

**1月19日（火）** 今日の研修先は池田食品株式会社。最初は皆さんお揃いの真っ白な制服やマスクといった格好に驚いた。次は皆さんと同じ格好に着替えて厳しい研修に入った。午前の3時間は検品作業で、午後の4時間は「検品+受取」作業だった。外から工場に入る手洗いやアルコール消毒などのルールは絶対に守ること。日本の食品会社の衛生に対する厳しさに驚いたほか、約7時間の肉体労働も印象深い。終わった後の感想文に「多分今度お菓子を見たら、それらをいままでよりもっと大切にしたい、ありがたい、という気持ちになるだろう」と書いた。

**1月20日（水）** 今日行ったのはキャリアバンクという人材派遣会社だった。これも前の SATO 社労事と同じく SATO GROUP のグループ企業の一つだ。前回 SATO GROUP について全体的な紹介を聞いてはいたが、初めて佐藤専務理事がこんなにすごい、偉い人であることに気付いた。また、代表と社長であるこの方が2日目の17日に丸一日を空けて、あちこち連れて行ってくださったことに深く感謝する。勿論、吉田事務局長にも同じだけ謝意を表したい。今日の研修を通して、人材派遣会社に対するアウトラインが少し分かるようになった。

**1月21日（木）、22日（金）** この二日間は札幌ばんけい株式会社のばんけい



スキー場へ行った。人生初めて雪山に登り、そのスキー場を見学した。21日にスキー場のリフト、レンタルなどを見て説明してもら

った後、次の日の 22 日に、本格的なスキーを体験した。ブレーキの掛け方、滑り方などを学んだ後は…頂上から山麓まで滑った。優しいスキーのコーチがいてくれたのに、二回転んでしまった。楽しい気持ちを持って、上の親会社の東原社長にお会いした。いきなり中国人観光客のマナー問題や中日両国の歴史問題などの話が出たが、両国がこれからどんどん仲良くなってほしいという東原社長の気持ちがよく分かった。

**1 月 23 日 (土)** 地下鉄で真駒内についたら、椿先生が迎えに来てくださっていた。先生の車に乗り、車中で先生から定山溪と豊平川の話聞いた。もしも目の前の綺麗な景色がまだ人を感動させなかったとすれば、その上に美しく古い伝説を加えれば、人は必ず感動する。美泉定山と定山溪、河童と豊平川、この二つの物語が私にこの二つの場所の名前を永遠に覚えさせたのだ。車を降りて、瑞苑というホテルにつき、そこで椿先生からいろいろなマナーを教えていただいた。夜の食事は中田会長たち協会関係者だけでなく、途中佐藤専務理事の奥様もわざわざ遠くから来てくださって感動した。



**1 月 24 日 (日)** 今朝ホテルからチェックアウトする前に露天風呂に入った。人生初めての露天風呂で、しかも雪の世界の中の露天風呂に興奮と感動が入り混じった、言葉で表せない気持ちだった。午後からはホームステイ体験で、これも人生初めてだった。お昼にお母さん(奥さん)の手料理——スパゲッティ



をご馳走になった。そして夜は嶋田夫妻お二人と一緒に藻岩山の頂上に登り、綺麗な札幌夜景を見た。天候に恵まれて、明るい月が空に高くかかっている。上は満月で、下は札幌市の輝く家々の灯火。夜の頂上のマイナス 10 度さえ自分の感動を抑えられなかった。

**1 月 25 日 (月)** 今日の日程は旭山動物園へ行くこと。朝のまだ早い時にお

母さんが美味しい朝ごはんを作ってくれた。食べ終わって出発する時に昼間のおにぎりまでも用意してくれた。玄関に立ち、本当は普段日本人がよく言う「いってきまーす」を言いたかったが、ホームステイが今日で終わりで、行ってから帰りはしないということに悲しく感じた。「嶋田家のお父さんお母さん、短い間でしたが、お世話になりました」とお別れの時に心からそう言った。

湿った気持ちを落ち着かせて、JRの特急で旭川市の旭山動物園へ向かった。園内には不器用でしかし可愛いペンギン、攻撃的に見えるが、実際、やっぱり活発で元気な白熊、雪を食べている猿、仲睦まじい雪豹夫婦…ほとんどすべての動物が至近距離で観察できる。多分これこそこの動物園が人気のある理由だろうと思った。



**1月26日(火)** 今日の昼間は物流事業の視察研修で、札幌通運株式会社へ行った。近年、中国ではネットショッピングが発展するにつれて、物流という概念もよく知られてきた。しかし物流会社の内部に入り、更に倉庫を見るのは学生である私にとって珍しいチャンスだった。また、物流会社の倉庫は取引先の会社の仮の倉庫となり、注文された向こうの商品を直接、物流会社から出荷する、という話も興味深い。研修が終わった後、同行の大澤部長はいろいろな特色のある所へ連れて行ってくださった。白い恋人パーク、大倉山のジャンプ台、夜の薄野街…この方と一緒にいる時間は今日の昼間だけで、限られた時間の中でできるだけ多くの面白い場所へ連れて行く、という気持ちを、彼のほう



からまた感じたのだ。夜は駐札幌中国総領事館の方も出席する新年交流会。その場で前の私のスピーチを改めて発表した。前回ほど完璧ではなかったが、日本で、多くの日本人の方に向けて、日本語でスピーチすること自体に意味があると思う。

一先ず宴会が終わり、お客さんが帰っていった。夜のとばりの下で、佐藤専務理事は自ら車で送ってくださった。途中、車の中で私は今日までの研修の中で最も困ったことを伝えた。それは将来何をするのかという困惑。今まで一番多く聞かれていた質問は：

「周さんは将来何をするの？」

大学四年生で、卒業が目の前に迫るといふ私は卒業して何をするかということさえ見えていない。こんな駄目な自分を責めながら、卒業までに人生の夢や目標を見つけた人を羨んできた。とはいえ、そんなにはやく自分を正しく評価し、さらに人生の目標を見つけ、それに向けて迷わずにまっすぐ行く人はほとんどいないだろうと思う。だから前の質問が来る度に私は困る。困りながらも、誰も教えてくれない、自分でしか見つけられないと思う。適当に就職するか、いっそのこと自分で起業するか、一体どういう人生を望むのか…といったいろいろな厄介な問題に包まれている自分は、一歩一歩前にゆっくりと進みながら、しっかり考えるほかにないと、車を降りた時に私はそう意識した。



**1月27日(水)** 今日の研修内容は日本の小売業。サッポロドラッグストア人事部の金澤さんから、日本の小売業の背景知識を教えた後、市内のいろいろなドラッグストアとスーパーへ連れて行っていただいた。最初の背景知識のキーワードは“商圈”。周りの人口数が商売の内容、規模を決める。そして各店を回る時に、狸小路のある店でほかの中国人たちの“爆買”を目撃…また、この爆買に乗じて、日本にまで触手を伸ばしている中国の物流会社である“顺丰”の影も見た。さすが我が同胞の中国人だ。一方、海外へ赴き、

その国に見せるのは決してちゃらちゃらした姿でなく、お金とマナーを兼ね備

えた姿だと思う。

**1月28日(木)** 光陰矢の如し。今日は研修の最終日だった。午前は株式会社財界さっぽろを訪れた。舟本社長から北海道の開拓史をいろいろ教えていただいた。何もない不毛の地から、今の栄えている光景になったのはつい150年前の話。野蛮と文明の衝突の中で、流血も避けられない。にもかかわらず、風、林、水、菜といった4大資産に恵まれているこの大地は、大きな包容力で矛盾を取り除き、今の繁栄を見せている。舟本社長がこの不屈のフロンティア精神を持っている北の大地の話をやつくりと語ってくださった。研修が終わる時にこんなに有意義な“授業”を受けるとは思わなかった。これで北海道という名前を巡る歴史や文化などのすべては、疑いなく私の頭に消そうとしても消せないほど深く刻まれた。

### おわりに

北海道での研修滞在時間は残り僅か一日。大学の卒論の発表が終わってからすぐ日本の雪国——北海道に来て、それ以来びつしりと入っているスケジュールに従って情報量の多い、充実した毎日を送っている。そう考えれば、すべては不思議な夢のようだった。日本語こそが私をここまで辿りつかせてくれたのだ。中日両国の渦の中に身を置き、長い歴史を通り抜け、目線を未来に向ける姿。日本語こそ自分が一生辿りつけない高さまで連れてきてくれて、私の人生も初めて、こんなに激しくて多彩になっている。

最後にもう一言申し上げたい。いままで大変お世話になりました。ここで企業研修を通していろいろな知識を学んだほかに、人生初めての、一生忘れない思い出もいっぱい作りました。優しい皆さんのおかげで、充実した楽しい二週間の研修を送りました。今回の二週間の研修はきっと私の未来の人生の役に立つと確信しております。北海道日中経済友好協会の皆様に感謝を申し上げます。また、研修させてくださった各会社の皆様にも感謝を申し上げます。

北海道、この北の“雪国”を大好きになりました！

浙江工商大学 周孝誠

2016年1月28日

一部※写真※追加

# 研修...





# そのほか

